

東京から地方へも 視野を広げよう

校長 吉田 亘

本校の2年生は、11月19日から3泊4日で、九州方面の修学旅行に行ってきた。私も同行し、生徒にとって、長崎を中心とした歴史、文化を知り、被爆の悲惨さと平和の大切さを感じるみのりの多い修学旅行だったと思う。この修学旅行のもう一つのテーマが、松浦民泊体験であった。そこでは、都会生活では経験が少ない、豆、粉、竹など原料から製品を作る体験や、地域住民を通じた人と人との深いコミュニケーションの暖かを感じることができ、生徒にとって大きな収穫であったようだ。

さて、便利な都会に住んでいると地方のことになかなか目が行かないことは、進学先選択でも感じるところだ。私が進路指導主任をしていた10年ほど前に、秋田県が、ある公立大学を設置するという記事を見た。正確には、県の公立大学法人という新しい組織であることは後ほど知ったが、元東京外国語大学学長の中嶋嶺雄氏を学長に迎え、グローバル化を見据えたりベラルアーツ（教養）教育を全授業英語で行うという画期的な説明だった。この国際教養大学について、「理念はすごい。だが、秋田県立大学なら学費は安いかもしれないが、せいぜい東北地域の学生が集まる程度ではないか。理念に応じた学生集めはできないだろう。」と感じていた。しかし、それは間違いであった。建学10年目を迎えて、今や東大、一橋に比する高レベルの大学のひとつになっている。学生も全国から集まり、就職先も様々なグローバル企業に全員が採用されている。



国際教養大学のキャンパス

この他にも、この分野で高い成果を上げている地方大学がある。九州の大分にある立命館アジア太平洋大学である。2000年4月に開校し、学生、教員とも半数近くが留学生と外国人という大学で、「国際社会への貢献人材の育成」を目指している。今年度、全国の有名大学とともに「スーパーグローバル大学（タイプB）」の24校に選定された。また、来年度に新設される山梨学院大学国際リベラルアーツ学部（iCLA）を注目している。この学部は、秋田の国際教養大学から多くの教授を集めて、同様のリベラルアーツの教育を実施することになっている。今後の動向を見ていきたい。

他の分野でも、様々な大学が地方で高い評価を得ている。修学旅行先の長崎大学は、医学部における3つの研究分野で、慶応大学などと並び国から科学研究費補助金（科研費）の配分が最大であり、その研究成果が期待されている。また、工業部門では、金沢工業大学の評価が高い。特に教育分野では、全国の学長評価において全国で第一位（朝日新聞調べ）、さらに「いま注目されている」大学、第一位（日経BP調べ）と様々な情報機関で上位にランクされている。

田高生には、東京や近郊の大学ばかりでなく、全国の多様な大学を知ること、自分の視野を広げ、東京からではなかなか見えないよさを感じてほしい。進学する、しない、は別にして、いろいろと調べ進路選択の幅をもつことで、将来の生き方につなげてほしいと思っている。

コンテキストとコテキスト

副校長 野村 悟

読解の本質は、文章を丁寧に読み、認識理解すること。

その際、一文そのものの意味と他の文との関連性を考えることが重要になってきます。その一文だけのものつ意味と文脈の中から派生する意味があるということになります。少し難解な表現をするならば、文字言語から思考する際は、コンテキストとコテキストという2者の視点を用いて認識を深化させていくこと、つまり理解していくことになります。

このことは文の読解、ということに限定されず、人と人とのつながり、ということでも援用できると考えています。人との会話の中で、その言葉の意味を考えると同時に前後の会話の文脈や置かれた状況を、含めて理解する必要があるのではないかと。

近年、その必要性を様々な場面で感じるがあります。

前提となることは、人の話を傾聴するということなのですが。

土曜に行っている現代文の講習では、常にコンテキストとコテキストの問題には言及してきました。

その際、参加している生徒に皆さんに言っているのは、重要なことは、読解した文、あるいは話し言葉の会話から得た情報の中から、“自分”はどう考えるかということになってきます。つまり、自分ならばどう考え、判断するか……その問題は自分の中で主体性を涵養するということにもつながると思います。

社会出ると、様々な状況の中で、自分の考えや判断を問われることが多くなるでしょう。

「自分ならばどう考えるか」……このことが、今のグローバル化した多様性の社会の中で、生きていく一つの有益な道具になると思います。ぜひ、日々の中で考えるという習慣を磨いて欲しいと思います。

保健室より

養護教諭 高嶋幸子

【保健室の様子】

保健室利用者は、11月まででのべ642人、一日あたり5.9人でした。身長を測る、スポーツ振興センターの手続き、質問、爪切りなどの用件も含めるともう少し多くなります。「なんとなく」来室する生徒はほとんどなく、充実した学校生活を送っているのかなと思います。

相談に来る生徒もいます。体のことから始まり、家族のこと、友達のこと、進路などに話が広がります。夢を語ってくれる生徒もいて、とても感動したこともあります！無限の可能性を広げてほしいと思います。

【健康情報はあふれていますが…】

かぜ症状での体調不良、早退も増えてきました。かぜの予防は「うがい・手洗い」が定番ですが、効果がないという説もあります。インフルエンザの予防接種も効果は5か月ほどと言われ、気休め程度にしか期待できません。

かつての「常識」が誤りだった、という例もたくさんあります。「傷は消毒しない」という閉鎖療法は、10年くらい前は異端扱いされましたが今は定着してきましたし、最近は「一日三食は食べ過ぎ」という説が注目されていますね。

情報を選択するのが難しい状況ですが、スマートホン等のアプリで、女性の月経周期を入力するとタイミングに合わせて「これを食べるとダイエットにいいよ、お肌にいいよ」などと、おすすめの食事やサプリメントを教えてくれるサービスもあります。一見便利ですが、頼りすぎると「自分で考えられない人」になってしまいそうです。

自分で考えないと、情報にふりまわされてしまいます。「誰それが言っていたから」と表面的な情報だけで判断したりせず、なぜそうなるのかの理由、根拠、背景それから反対の意見も確かめてから「自分はこう思う」と判断する力が必要です。生徒には、ぜひこの力を身に付けてほしいと思います。

『田高進路プロジェクト』

進路指導部 入山美樹子

十月、十一月は『田高進路プロジェクト』による進路行事が以下のように行われました。

1. 1、2年「大学・専門学校説明会」 1、2年生全員対象

日 時 平成26年10月30日（木）

大学・専門学校の先生約30名をお迎えして、各学校の概要や入試方法、今からどのような準備をしたらよいか等を講義していただきました。1年生はベネッセの大学入試講座と学校2校、2年生は1人3校の説明を聞きました。1、2年生は来年度の選択科目を希望進路に合わせて決める時期でもあり、将来の夢を実現させるためには、こういった進路選択をしたらよいのか等、今後の参考にできていればと思います。

2. 3年 「直前大学入試説明会」 3年生希望者対象

日 時 平成26年11月13日（木）

法政大学・東洋大学・専修大学・東京都市大学・明治学院大学・駒澤大学・神奈川大学の入試担当者の方をお招きして、入試方法の説明と受験に向けてのアドバイスをしていただきました。

この時は、まだこれから行われるほうが多かった推薦入試が、現在では一段落し、3年生の中には、すでに合格通知を受け取った生徒もいます。合格したみなさん、おめでとうございます。しかし、これからの生活が重要です。残された高校生活を有意義に過ごし、進学先の授業についていけるよう、4月からの新しい生活に備えてください。また、一般入試はこれからが本番です。受験する3年生の皆さん、万全に準備して入試に臨んでください。3月にはいい知らせがたくさん届くことを願っています。

3. テーマ別キャリアガイダンス NO4.「公務員のしごと」 1～3学年希望者対象

日 時 平成26年11月28日（金） 3：40～5：00

講 師 人事院 広報情報室 大場 昌弘さん、齋藤陽子さん

公務員にはどんな種類があるのか、公務員になるにはどうしたらよいか、公務員のしごとの魅力は何かなどわかりやすく講義していただき、また、実際の就職体験談もお話ししていただきました。公務員の仕事に興味関心のある生徒を中心に102名もの参加がありました。

さきはえよ 12 月

1 学 年

師走の風が吹き始め、朝起きると肌寒く感じられます。期末考査が終わり（25日には、成績が届きますが）、少し「ホットすることができる」期間かもしれません。合唱祭の練習も本格的に始まりました。

通学の車内は着ぶくれラッシュで窮屈な時間になりました。最近電車の遅れが目立ち、毎日担任のもとへ遅延証が届きます。遅延証の束は、厚さ1cmに届かんばかりの勢いです。学校では遅延の手続きをしますが、もし大学入試のときを考えると、日頃から余裕を持った時間の設定と生活様式を身につけることが大切です。

冬休みは、新しい年を迎えるに当たって色々な行事があり、じつくりと勉強する時間が取れないかもしれませんが、提案として、「時間を取り勉強に取り組む」と言うのは如何でしょうか。新年の計は元旦にありですか。

修学旅行、その他

2 学年 有馬 聡

11 月 19 日(水)～22 日(土)に修学旅行を実施いたしました。すでに様々な土産話をお子様からお聞き及びのことと存じますが、天候にも恵まれ、また、途中で体調不良を訴える者もなく、無事に終了いたしました。

長崎への修学旅行に向けてこれまで多くの事前学習を重ねてきましたが、実際に長崎原爆資料館を見学し、また被爆体験講話として山脇佳朗さんのお話を伺い、生徒諸君も平和への思いを新たにしましたようです。また松浦での体験学習や民泊では、東京ではなかなか経験することのできない色々なことにチャレンジし、特に民泊先では自然に囲まれたそれぞれの家庭で、料理を手伝ったり初対面の大人を相手に様々な話をしたり、とても貴重な経験をしたようです。最終日の離村式では僅か 1 日だけのことなのに、その別れに際して涙ぐむ生徒も見受けられるなど、大きく印象に残る経験であったようです。

修学旅行後の総合の時間に「修学旅行で学んだこと」「修学旅行の思い出」というテーマで書いた作文を読むと、他にも長崎市内の班別自主研修、九十九島の遊覧船、太宰府、やすらぎ伊王島での宿泊そのものなど、色々なことが取り上げられており、楽しく充実した 4 日間であったことが窺われます。

さて、2 学年の 3 学期のことを最近では「3 年 0 学期」と呼ぶことがあります。進路に向けての準備を早い時期から行う必要性を表しているわけですが、確かに 1 月にセンター試験があるのですから 2 年の 3 学期がちょうど受験 1 年前ということになり、意識を高めることにつながるということでしょうか。もちろん大学入試の結果が全てではありませんが、それぞれ希望する進路に向けて真剣に努力を重ねるということはとても大切なことです。むやみに焦ることは厳に戒めなければなりませんが、この時期に今後 1 年間で何をいつまでにやらなければならないのか、何を優先すべきなのかといったことを考えてほしいと思います。

ご質問やご相談などがございましたら、各担任へお気軽にご相談ください。一人一人が思い描く将来の姿に一步でも近づくことができるよう、担任団一同、切に願っております。

「進路実現に向けて」

3 学年担任 駒場 晃

月日が経つのは早いもので、あと 3 か月で卒業式を迎えます。3 年生の約 3 分の 1 は、既に進路先が内定し、卒業に向けた取り組みに入った生徒もいます。一方、これからが受験本番、3 年間の集大成を見せようと最後の最後まで努力を重ねている生徒も過半数います。私たち 3 学年担任団も生徒たちが悔いのない 3 か月を送れるように精一杯支えて参ります。

3 年生の担任は、生徒一人ひとりと向き合い、進路実現に向けてともに歩む責任と充実感を得られる一方、すべての行事に、「最後の」が付く寂しさがあります。日に日に「最後（さいご）の」という 4 文字が多くなり、第 63 期生卒業までの時間が近づいていることを実感しています。今現在は、3 学年全員が進路実現できるように 11 月より個人面談をはじめ、進学希望者に対しては受験計画日程表を作成している最中です。最終的には、保護者の皆様に確認していただいた上で手続きを進めて参りますのでよろしくお願いいたします。

卒業式には「色々あったけど田高を選んでよかった」と生徒・保護者の皆様に思ってもらえるような学校生活を最後まで送らせたいと考えています。残りわずかとなりましたが、最後までご協力をお願いいたします。